

会議開催結果の概要

会議の名称	第5次大分市国際化推進計画策定委員会 第5回策定委員会
会議の開催日時	令和7年2月14日(金)10時01分～11時27分
会議の開催場所	大分市役所議会棟4階 全員協議会室
会議の公開または 非公開の区分	☒ 公開 ・ ☐ 一部非公開 ・ ☐ 非公開
傍聴者数	なし
出席委員	(委員長)下田 憲雄 (副委員長)中村 志信 (委員)伊藤 精、太神 みどり、佐野 真紀子、石丸 直子、 楊 佳、宮瀬 とも子、正池 功、高田 隆秀 以上10名
会議の議題	議事1 パブリックコメントについて 議事2 最終案について 議事3 今後のスケジュールについて

第5回策定委員会

開 会

<議事1:パブリックコメントについて>

■ 事務局より上記について説明

【質疑応答】

副委員長	16ページに「本市はこのような特色のあるキリシタン・南蛮文化の魅力を国内外へ発信するとともに」とあるが、「発信するとともに」と言い切っているのであれば、これまでの取組例があると具体性が増すと思う。
事務局	本市は大友宗麟の関係で南蛮 BVNGO 交流館を拠点に施設整備をしている状況であるが、現状はまだそれを国外へ発信できていない。しかし、そのような大分市の魅力や資源を活かして国内外に発信してまいりたいと考えている。
委員	大友宗麟については、平成に入ってから整備を進めている。来年度、ルイス・アルメイダが生誕500年を迎えるため、大きなイベントを計画している。 また、2030年は大友宗麟生誕500周年という節目であり、そこに合わせながらソフト面の部分になると思うが、国内、さらには国外も含めて発信をしていきたいと考えている。 現在、大分駅から東側の広い敷地を文部科学省とともに整備を進めており、それは大分市を代表する歴史の整備であり、今後の5年間の中で大きく紹介をさせていただく部分であると考えている。
委員長	5、6年前、大分駅の南側からスタートして古国府あたりまでを回遊させて大分市観光の魅力について知るイベントに学生を引率したが、案内や各スポットで説明をしてくれる方がいた。 国府の設置のあたりから戦国時代まで、当該地域の地形が海や港であったというような話を聞くことができ、いろいろな取組も実施していたため、文章としては間違っていないと考えている。
委員	パブリックコメントの地域日本語教室について、日本語教育というところも重要であるが、外国人に地域に入ってもらい、地域住民と接点を持って、1人の住民として大分市に住んでもらうこ

	とが1番の目的だと思う。 修正案で、この日本語教室が「地域住民との交流の場として重要な役割を果たしています」とあるが、この日本語教室の中に実際に住民の方が入り、日本語教室が開催されているというイメージなのか。
事務局	本市には、地域日本語教室が複数あるが、大体はボランティア団体が行っており、その先生と生徒が身近に暮らす住民同士なのかと言われれば、そうではないかもしれない。 しかし、一般の市民と外国人が良い関係を築き、外国人の方が日本語の先生を非常に頼っているという状況を聞いていることから日本語学習というだけではなく、居場所など大分市で長く住みたいと思えるにはそのような場が必要ではないかと考えている。
委員	私の団体は32年前から日本語を教えることをメインに活動している一方、国際交流団体であるためイベントなどでも外国人の方と交流をしている。 また、病院に同行したり、色々な生活の相談にも乗ったりしているが、他の日本語教室も同じような状況ではないかと思われる。
委員	日本語教室でボランティア活動をされている人達が、住民の1人として外国の方に日本語を教えつつ、受け入れようとしているということは素晴らしいと思う。 パブコメで意見を出された方は、日本語教室の中でという部分もそうであるが、もっと地域の中で受け入れてほしいということが書かれているのではないかと思うなかで、この修正案だとその入口の日本語教室の部分だけしか記載がないのではないかと印象を受けた。
事務局	こちらのご意見の原文を読むなかで、市としては日本語教室に対するご意見であろうと判断し、このような修正案とした。
委員	最終的には地域の人達と一緒に、地域住民との接点をしっかり持ち、地域の中で受け入れるということを日本語教室でなくても表現されていると考えてよいか。
事務局	現状と課題には具体的に記載していないが、取組の中にそうし

委員 事務局 委員長	た地域の中で多文化共生が促進されるような取組を取組項目として掲げている。 以前、各学校で地域に住む日本語が得意ではない生徒や親に来てもらい、その人たちへ日本語を教えるということをやっていた。学校で事故が起きた時、誰が責任取るのかという話や費用についてどのように捻出するのかという話になり、なくなってしまったと聞いたことがある。 地域別に公民館や学校を使いながらやれる方法がないかということを検討してみてはどうかと思う。 本市でも先日、日本語ボランティア養成講座を実施した。反響が大きく、多くの市民の方に参加をしていただいた。 現在ボランティアで活動されている団体があるが、このような取組が全市に広がり、大分市の地域としての日本語教育、それは共に生きていく、多文化共生につながるという意味だと考えているため、いただいたご意見を参考に何か考えていければ思う。 多文化共生やコミュニケーションの形成というところの具体的な取組でカバーしていただければと思う。 地域の住民が外国から来られている人達との交流のあり方については色々な取組の方法があると思うことから、今回の意見について反映していただければと考える。
---------------------------------	---

<議事2:最終案について>

■ 事務局より上記について(冊子版)説明

委員長	先ほど委員から意見のあった部分について、本文中ではどの辺りに反映させる項目となるか。
事務局	31ページに施策2-2として「地域における多文化共生の促進」があり、その取組項目の中で地域住民と外国人という具体的な記載はされていないが、相互に交流できる様々な場を設けたいと考えており、また関係団体が自主的にそのような活動をしやすい環境を作っていきたいと考えている。 具体的には取組項目の「外国人と日本人や地域をつなぐキーパーソンを通じ、外国人市民の積極的な地域活動等への参加、参画を促進します」という部分になるが、様々な取組を行いながら、地域住民の外国人に対する偏見をなくす取組や27ページの「コミュニケーション支援」についての取組など全体的にいろいろな施策にまたがるような形で対応することになるかと思う。
委員	31ページに「外国人と日本人や地域をつなぐキーパーソンを通じ、外国人市民の積極的な地域活動等への参加、参画を促進します」と記載されているが、先ほどのパブリックコメントにあったのは、そのようなアプローチもあれば、地域住民側へのアプローチも考えなければならないのではないかと感じた。
事務局	地域住民側に対しては、取組項目の「異文化理解を促進する講座・教室等を開催します」という部分で、外国人との共生について考えていただき、多文化共生の取組が進めば良いと思う。
委員	ここに「地域住民」等の文言をはっきり記載した方が良いと思う。
副委員長	私も賛同する。 外国人市民の参加と地域住民の参加の両サイドで取組をしないといけないと思う。
委員長	今の委員の修正案について、他の委員はどうか。全員の総意があれば、一方的な方向だけではなく、お互いが積極的に関与するということが表現できるような文言に修正をしたいと思う

	が、よいか。 また、文言については事務局に一任する形で良いか。
各委員	「よしの声」
委員長	お互いに関わり合うことで理解が深まるということがあるため、今の意見が反映されるような文言への修正をお願いしたい。 具体的な施策については、またそれぞれで実施すると思うので、何が必要かということはそれぞれ施策を立案するときに、考えていただければと思う。 先ほどの公民館の活用や空いている小学校の活用も方法の1つであろうし、ボランティア団体も様々な活動の場を求めていると思うことからそのようなことも市として取組んでいただければと思う。
委員	施策2-1「国際化を担う人材の育成」で ALT の活用や「小中学校における外国語科等の授業において」という文言があるため、これまでの取組例のところに子どもが交流している写真を掲載すると一目で子どもから大人に対しても取組を行っていることがわかると思う。 数値目標にも「外国人と交流する事業に参加したこどもの数」とあるため、子どもが出ているような写真を使用すると良いと感じる。 施策2-2の方は大人と交流しているイベントで良いと思う。 また、表紙はこれで決定なのか。
事務局	様々な国の人々が手をかざした写真を先日撮影し、多様性を表現したいため、そのような表紙にしようと考えている。
委員長	30ページの写真については、子どもの顔が特定されないような工夫がされているものがあると良いと思う。
委員	子どもは後ろ姿で、留学生だけ顔が見えているという写真であれば良いと思う。
委員長	後ろから子どもの顔が特定できないようにして ALT などの先生たちは顔が見えても良いと感じる。個人情報等に十分注意していただきながら写真の選定をお願いしたい。

委員	21ページの地図の部分が「オースチン」になっているので、修正をお願いしたい。
事務局	こちらについては、今後差し替える。
副委員長	20、21ページについて、姉妹都市・友好都市・交流促進都市の違いは何か。21ページ下の余白に注釈があるとわかりやすいと思う。
事務局	注釈をここに載せる形で対応する。
委員長	行政上の取扱いの違いだけでこのように名称が異なっているということではないか。
事務局	姉妹・友好都市という名称については、元々アメリカで「Sister city」と呼ばれたことから、それを直訳した「姉妹都市」という呼び方が今日まで多く採用され、中国との提携の場合には、「友好都市」という呼称が全国的に多いようである。 交流促進都市については、姉妹・友好都市の枠組みにとらわれず、窓口を広げたオープンな国際交流の展開と交流促進を図る都市という位置づけになっている。
委員	33ページの「インバウンド観光の推進」の取組項目は商工労働観光部の観光戦略プランとの整合は図っているか。
事務局	第2次大分市観光戦略プランや新しい大分市総合計画などとも整合を図っている。
委員	35、36ページの施策の方向性4.「海外との連携により、ともに発展する大分市の実現」とあるが、後の部分を見ると「交流」が多く入っている。姉妹・友好都市との交流があるのであれば、例えば海外との交流・連携というような言葉でも良いと感じた。 また、35ページの「姉妹友好都市をはじめとした海外都市と積極的に交流することで、国際色が反映された「まち」の賑わいにつなげていくことが求められます」については、海外都市との交流からいきなり「まち」の賑わいにつなげていくという表現が飛躍している感じを受けた。 例えば、姉妹・友好都市と交流することで、大分の知名度の向

	上や誘客につながると思うが、そのようなことがあったうえで、最終的には姉妹・友好都市の文化を受け入れて、文化レベルが向上して、「まち」の賑わいができたりするような流れになるのではないかなと思う。「まち」の賑わいにつなげていく前段階の何かがもう一言あってもいいのではないかなと感じた。 36ページの施策4-1「海外都市との交流による地域の活性化」の取組項目について、「海外の芸術家や選手が参加する文化、スポーツイベントの開催・誘致等を通じ、地域の活性化を図ります」との記載がある。 例えば、海外の芸術家とかスポーツ選手が来ることで、何が実現されるのかと考えた時に、文化レベルの向上や地域住民のグローバル意識の醸成みたいなことが考えられると思うため、そこは具体的に記載した方が良いと考える。
委員長	今の意見については、地域の活性化というよりも「国際色が反映された「まち」の賑わい」という文言を使用すると良いと思う。 35ページの現状と課題の部分で課題として指摘しており、そのような施策で国際色が反映された「まち」の賑わいにつなげていきたい、そしてそれが全部集まって地域の活性化になると思われるため、その課題解決のためにこのような取組を進めていくというように読めるかなと思う。
副委員長	第1パラグラフで教育面や経済面での効果・影響を記載し、その後「まち」の賑わいへつなげていくという文章の流れがスムーズではないか。
委員長	それでは、間に大分市の知名度を上げるとの文言を挟んで、知名度を高め、また知名度を高めるだけでなく、市民の意識改革、国際都市になるという意識改革が進むことによって、ひいては国際色が反映された賑わいのある「まち」につなげていきたい、つなげる必要があるだろうというような文言の修正をお願いしたい。 また、言葉の選択は事務局に一任する。観光戦略や総合計画の中で使われている言葉を引用するのが良いと思う。 使用されている写真については、魅力的に見えるよう、PR が積極的にできるような形で写真を掲載していただきたいと思う。

<議事2:最終案について>

■ 事務局より上記について(概要版)説明

委員長	概要版は冊子として配布するが、その表紙に二次元コードがあり、本編のウェブサイトへ飛ぶ形を取っていることから本編は印刷をしない。
委員	「海外販路拡大への支援」とあるが、どのような支援の計画があるのか。
委員	昨年度はシンガポールでおおいた製品の試飲・試食イベントを実施した。 今年度は大分市で海外販路を拡大したいという方を募集して、コーディネーターに大分市の企業を訪問していただいた。その商品を実際に試したところ、シンガポールで売れそうな候補が今3社ほどある。 2月末頃からその3社と本市職員がシンガポールを訪問して、現地で商品を扱ってもらうような商談を行う予定がある。
委員	おおいた産品等おおいた海外ビジネス促進協議会が発足した当時、海外ビジネスをしたいという人たちがたくさんいた。 先日、あるセミナーに参加したが、海外に物をどのように売り込むのかということについて、その分野の知見を持った人、サポーターが必要だと感じた。 現在、多くの企業が外国人を雇用する流れになってきているが、雇用しても外国人を活用できない、活用するような訓練を受けてきていないので、うまくいかないことがある。 サポートをしてくださる方を上手に活用して、企業と接点を持たせるのがベストだと思うことからそのようなことを考えていただけたらと思う。
委員	商工労働観光部としても企業向けのやさしい日本語習得セミナーの取組をしているが、先ほどご指摘いただいた部分がまたビジネスにつながるということもあるため、今後取組を考えていきたいと思う。
副委員長	先ほどの補足であるが、今回シンガポールから来た方は、おおいたの産品を目利きしてもらい、売れそうなものを現地で販売することになるので、まさにそのサポーター的な役割に該当す

	る。 マーケットインの発想で、現地で売れるものは何なのか、このままでは現地で売れないものをどうしたら売れるようにするのかなどの助言をいただくために、そのサポーター的な方に大分の企業を回っていただくという取組を進めている状況である。
委員	多言語防災ガイドブックについて、取組例の横に二次元コードを入れていただけると、これを見ながら外国人に教えてあげようという方がすぐに見られると思うので、良い取組は二次元コードを出していただきたい。
事務局	次期計画案では、過去計画のデータにつながるリンクをはじめ、各所に参考リンク(ハイパーリンク)を付けている。 二次元コードについては、写真配置場所など、全体的なバランスを考慮し、リンクにするか二次元コードにするか検討したい。
委員長	ぜひお願いしたい。文字をクリックするなどの説明をしてほしいと言われたことがあるため、リンクの説明が必要かもしれない。 最終案のご意見の反映等の修正作業については、事務局と私の方で確認しながら進めていく。

<議事3:今後のスケジュールについて>

■ 事務局より上記について説明

閉 会